

トックプ

時事論

アクサ生命保険(株) (東京都港区)

代表取締役社長兼CEO

やすぶち せいじ 安 渕 聖 司 氏



健康経営の取り組みを説明するアクサ生命保険の安渕聖司社長兼CEO＝松江市母衣町、島根県商工会館

人はむしろ増えるだろう。保険に限らず、育児や進学、介護など人生に関わるさまざまなテーマについて相談を受け、必要な備えをアドバイスするのがわれわれのライフマネジメントだ。若年層に向けた金融知識の啓発も含め、活動の舞台は広がるとみている。

— 対企業の健康経営支援を全国で展開している。

人生100年時代において、経営者や従業員の健康寿命延伸は重要なテーマだ。採用や在籍社員のモチベーションに関わり、地域経済の持続可能性にもつながる。山陰においても、商工会議所や協会けんぽと連携して、主に中小企業に向けた支援を行っている。21年はオンラインの産業医サービスも始めた。産業医確保が難しい企業でも、リモートで本部の専門家のサポートが受けられる。地域や企業のニーズを把握し、必要とされるソリューションを提供し続けたい。

(聞き手は部田寛孝)

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、健康や人生設計に対する人々の意識が高まったとされる。生命保険業界も顧客ニーズや社会の変容に対応すべく、さまざまな取り組みを進めている。6月に島根県を訪れたアクサ生命保険(株)(東京都港区)の安渕聖司社長兼CEOに業界の現状や自社の事業展開について聞いた。

遠隔のマネジメント体制奏功

— コロナ感染症は業界にどう影響した。

リモートと対面を組み合わせたハイブリッド型の営業が広がり、コロナ禍でのスタンダードになった。もっとも、感染が広がり始めた2020年

春は従来の対面営業が封じられ、業界全体が苦境に陥った。

当社の場合は、東日本大震災での教訓から札幌の第2本社を14年に設置し、遠隔でのマネジメント体制を整備していた。これが奏功し、比較的スムーズ

にリモート移行が進んだ。20年4～6月には100%在宅によるコールセンター体制を確立し、業績回復に結びついた。

在宅コールセンターを確立／リモート移行進み業績回復

— 人口減や少子高齢化は、生命保険界にとって逆風ではないか。

市場縮小が言われるが、時代の変化がより激しくなる中で、医療や保障を必要とする